

小ギク栽培情報

令和3年産

第6号（8月号）

7, 8月咲き品種については大方のものが収穫・出荷を終えられたことと思います。まずはお疲れさまでした。

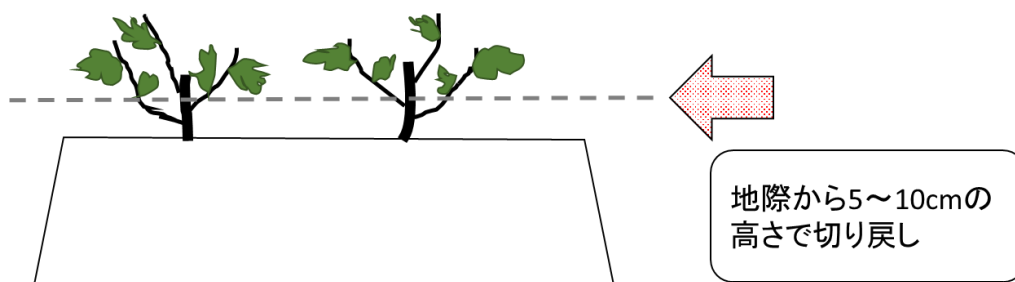
さて、今号では、収穫終了後に早速ではありますが、切りあと株（親株）の管理についてを主にお知らせします。来年に良質な穂を多く採るための重要な作業となりますので、遅れなく実施していただきますようお願いします。

【7, 8月咲き小ギクの収穫後（親株）の栽培管理】

1. 株の切り戻し（作業時期：8月中旬～9月10日頃まで）

良質で揃った新しい芽を出させるために必要な作業です。2番花が咲いている場合もありますが、思い切って刈り込んでください。

収穫終了後、切りあと株を地際部から5cm～10cmの高さに刈り込みます。このとき、異品種、生育や草姿の良くなかったもの、同一品種の中でも開花が遅れた株を事前に抜き取っておくことで、翌年以降揃った品質の切り花を得やすくなります。



2. 土かけ・施肥（作業時期：切り戻し後すぐに）

切り戻し後、吸枝（新芽）の発生・伸長を促進させるため、支柱とフラワーネットを片付けてマルチをはがし、化成肥料(N:10%程度)を10kg/a（畝1m当たり約100g）で施用し、株元に「土かけ（土入れ）」を行います。

マルチをはがす際に無理に持ち上げると株が土から浮いてしまうことがあるので注意してください。

3. 親株床の準備（作業時期：9月中）

7, 8月咲き品種は、採穂時期が3月下旬～4月上旬になるため、親株はハウス内に定植し管理することが望ましいです。

⇒ハウスが無い場合は、早春に親株床をトンネル等で被覆します。

幅1m、高さ10cmほどの畝を立て、苦土石灰を10mあたり100g、細粒868等速効性の肥料を10mあたり200g施用します。

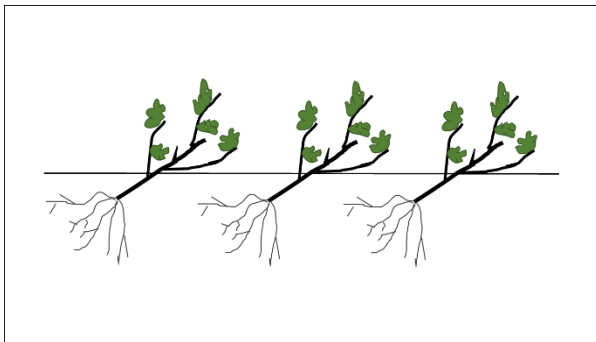
キクの根は浅く細いので過湿や過乾燥に弱いです。できるだけ通気性、保水性に富む土壌に移植してください。必要に応じて堆肥等を混和し土壌改良を行ってください。

4. 親株移動（作業時期：9月20日頃～10月下旬まで）

移植が遅れると、低温により生育が遅れ冬至芽が少なくなり、来春の挿し穂の確保が難しくなるので、可能な限り早い時期に移植します。

特に親株を露地で管理する場合は10月上旬までには移植を完了させます。

移植は、15cm×10cm 程度の間隔で、下の図のように斜めに深く植え込み、株元まで十分に土がかかるようにしてください。



【9, 10月咲き小ギクの管理】

1. 病害虫の防除

ハダニ類・ヨトウ類・オオタバコガ・アザミウマ類の発生に注意しましょう！

- 引き続き高温期です。ハダニ類、アザミウマ類、ヨトウ類、オオタバコガなどが多発しやすい時期ですので、定期的な薬剤散布を続けてください。

表 8月下旬～9月中旬の防除ローテーションの例（9～10月咲き小ギク）

（令和3年8月2日時点での登録のもの）

時期	対象病害虫	薬剤名	使用量・倍率	回数	RACコード
8月下旬	白さび病 褐斑病 黒斑病	ダコニール 1000	1,000 倍	6 回	F:M5
	ヨトウムシ類	ノーモルト乳剤	2,000 倍	2 回	I:15
	ナミハダニ	マイトコーネフロアブル	1,000 倍	1 回	I:20D
9月上旬	アブラムシ類 アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤	2,000～4,000 倍 2,000 倍	5 回	I:4A
	アザミウマ類 ハモグリバエ類 ヨトウムシ類 オオタバコガ	アフアーム乳剤	1,000～2,000 倍 1,000 倍 1,000 倍 1,000 倍	5 回	I:6
9月中旬	白さび病 アブラムシ類 アザミウマ類 ハモグリバエ類	ハチハチ乳剤	1,000 倍	4 回	I:21A F:39
い。 ★病害虫発生時 （発生を確認した病害虫に合わせて、右欄の剤を追加散布してください）	うどんこ病 白さび病 灰色かび病	アフエットフロアブル	2,000 倍	3 回	F:7
	褐斑病 黒斑病 白さび病	ベンレート水和剤	2,000～3,000 倍 2,000～3,000 倍 1,000 倍	6 回	F:1
	アザミウマ類 ハダニ類 オオタバコガ ハスモンヨトウ	グレーシア乳剤	2,000 倍	2 回	I:30
	アブラムシ類 コナジラミ類	コルト顆粒水和剤	4,000 倍	4 回	I:9B
	ハダニ類	カネマイトフロアブル	1,000～1,500 倍	1 回	I:20B
	アザミウマ類 ハダニ類	アグリメック	500 倍	5 回	I:6

※農薬の使用に当たっては、必ず薬剤容器ラベルの記載事項を確認し、適正に使用してください。